

## 「こころ」をはかる

人は「好ましい」と評価する地域資源を「保全したい」と思うのか

### 1. 『「こころ」をはかる』ことを対象とする学問領域（環境心理学）

「こころ」をはかる学問領域は、おもに環境心理学と考えている。環境心理学は、個人と彼ら・彼女らの物的セッティングとのトランザクション（個人と環境との間の影響の循環性）に関する学問<sup>1)</sup>と定義される。つまり、人間と環境との関係を明らかにする学問領域である。

環境は、農地や農業水利施設といった物理的環境に加え、地域の伝承やソーシャルキャピタルといった社会・文化的環境も含まれることに注意する必要がある。

### 2. 「こころ」をはかる際に使用する手法

農業や農村が抱える様々な問題を、それに関わる人間の行動を制御することで解決を目指そうとするには、上記の環境心理学的な考え方が有効となる。

環境を評価するために、有効な考え方を以下に2つ紹介する。

#### 2-1. パーソナル・コンストラクト理論<sup>2)</sup>

パーソナル・コンストラクト理論とは、「人間は経験を通じて構築されたコンストラクト・システムと呼ばれる、各人に固有の認知構造を持ち、その認知構造によって環境及びそこでの様々な出来事を理解し、またその結果を予測しようとしてつとめている。」ことである。

つまり、人間が目や耳等の感覚器を通じて得た外界からの情報を、各人固有の理解や判断の仕組み（以下認知構造）によって情報処理し、その環境を理解するというもので、環境を評価するプロセスを階層的に説明できる。

ここでコンストラクトとは、人間が目や耳などの感覚器で知覚した環境を意味のある世界として理解する際の認知の単位で、「大きい-小さい」のような形容詞対で形成される。主観的・抽象的なコンストラクトは上位に、客観的かつ具体的なコンストラクトは下位に位置するような認知構造が形成される。

この理論を用いた手法として、評価グリッド法<sup>3)</sup>がある。評価グリッド法は評価項目を回答者自身の言葉で抽出でき、分析者の主観の混入が少ないことが特徴である。この理論を用いると、例えば人が環境を好ましいと評価する要因が具体的に明らかにできる。これは、地域資源（例えば景観）の保全方法を策定するうえで有用な情報を我々に与えてくれる。

#### 2-2. 予定行動理論 (Theory of Planned Behavior)<sup>4)</sup>

予定行動理論とは、人間が行動を起こす要因を明らかにしたもので、図1の

ような関係が示されている。

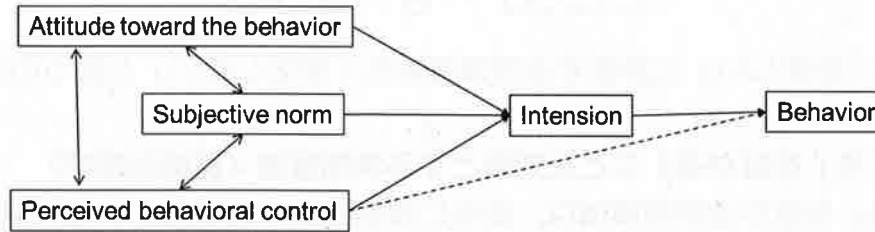


図1 予定行動理論

行動 (Behavior) は行動意図 (Intension) や知覚行動制御 (Perceived behavioral control) が影響し、行動意図は行動に対する態度 (Attitude toward the behavior) や主観的規範 (Subjective norm), 知覚行動制御が影響する。これをごみ分別で具体化すると図 2 のように説明できる。

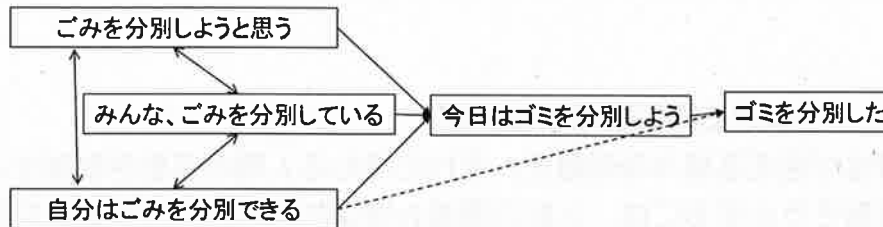


図2 ごみの分別を例に

農業農村工学分野では、この理論を援用した環境配慮行動の要因連関モデル<sup>5)</sup>が多用されている。使用事例としては例えば、ため池での環境保全活動への住民参加の促進策の検討等で用いられている (兵庫県いなみ野のため池群)。

### 3. 農業農村整備で「こころ」をはかる意義

農業農村整備事業は、空間を変化させる行為である。事前にその空間の評価を決定する要因を知っておけば、その空間の評価を低下させる工事を避けたり、代替案を検討できる。また、選好性を決定する要因には、その空間の保全に参加したいといった動機に影響するものもある。それを知ることができれば、内発的に農村が維持、管理されるような空間を計画でき得る。

#### 引用文献

- 1) R.Gifford (訳・羽生和紀ら；2005)：環境心理学 (上), 北大路書房, 京都.
- 2) G.A.Kelly (1955) :The Psychology of Personal Constructs, vol.1, Norton , New York.
- 3) 讀井純一郎・乾正雄 (1986)：レパートリー・グリッド発展手法による住環境評価構造の抽出,日本建築学会計画系論文集 No367, 15-21.
- 4) I.Ajzen (1991)：The theory of planned behavior, Organizational Behavior and Human Decision Processes, 50, 179-211.
- 5) 広瀬幸雄 (1995)：環境と消費の社会心理学, 名古屋大学出版会, 名古屋.

文責・廣瀬裕一 (農研機構 西日本農業研究センター)